

信頼と誇りと

恵み野病院だより



2013年4月26日 第20号

ごあいさつ

院長 貝嶋 光信

4月になりまた新しい年度を迎えました。多くの職場がそうであるように、恵み野病院にも新任の医師、看護師をはじめ多くのスタッフを迎えて新たな船出が始まりました。この紙面に新任医師の挨拶が掲載されています。新しいスタッフ共々どうぞ恵み野病院をよろしくお願いいたします。

さて恵み野病院は今年5月1日で28年目を迎えます。当院は開設以来一貫して、この地域にあって、皆様に信頼され、愛される医療機関として、また「当地に無くてはならない医療機関」を合い言葉に進んで参りました。これからも職員一同、心をつにして努力する所存です。日々の診療のなかで、皆様を感じられたご感想やご意見は、当院がより良い医療機関へと進化する貴重な糧であります。どうぞ、皆様のお声を我々にお聞かせ下さい。

糖尿病内科（糖尿病・生活習慣病センター）

副院長・センター長 森合 哲也

近年世界中でとても増えている糖尿病を中心として診療しています。また糖尿病の前段階としてメタボリックシンドロームにたいする指導にも力をいれています。日本糖尿病学会認定教育施設として、現在医師2名と 高橋典子センター主任を中心に看護師、栄養士、薬剤師などの糖尿病療養指導士を中心として診療しています。

診療医師

森合哲也（副院長）1981年卒 （写真手前右）
日本糖尿病学会指導医-専門医、
日本消化器病学会指導医-専門医、
日本消化器内視鏡学会指導医-専門医
日本内科学会指導医-専門医
日本医師会認定産業医

今井実（医長） 2005年卒 （写真手前左）
日本内科学会認定医
日本糖尿病学会専門医



診療実績

年々患者数は増加傾向にあり、2011年度の糖尿病外来受診実患者数は前年度より410名増加し1761人、糖尿病の入院患者数183人でした。

治療法別：	人数	割合	平均HbA1c(NGSP)%
食事、運動	299人	16.98%	6.71%
経口薬	981人	55.71%	6.98%
GLP1±経口薬	54人	3.07%	8.04%
インスリン±経口薬	299人	16.98%	7.84%

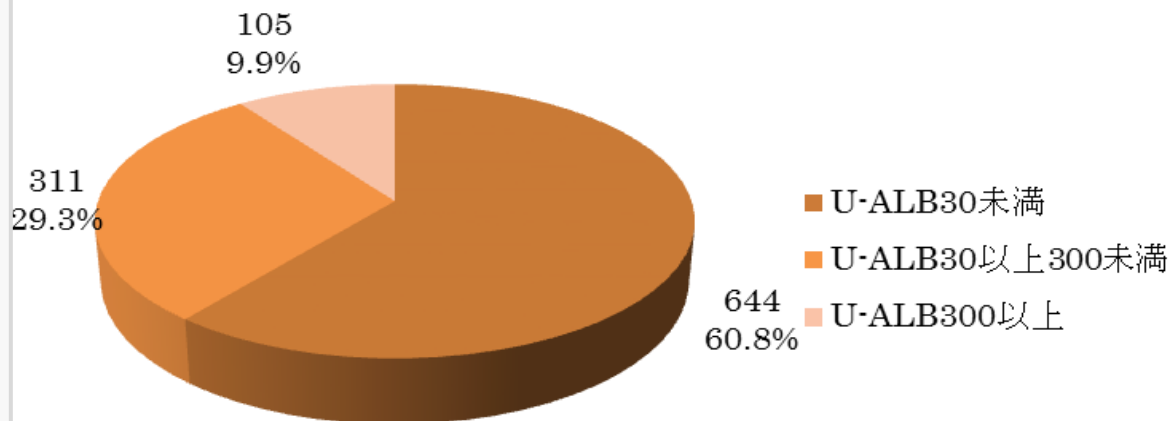


次のページに続きます→



糖尿病内科からのご案内

U-ALB 腎症ステージ別人数



近年、糖尿病で腎臓が悪くなり人工透析になる人が増えています。これを少しでも防ぐため、糖尿病性腎症透析予防指導を始めました。これは初めて糖尿病療養指導士の看護師、栄養士がチームで食事、生活の改善に努めるものです。当科で指導対象となる腎症2期以上の患者さんは400名以上おり、昨年5月より開始しております。

また、糖尿病が長くなると、神経や血流が悪くなり足に問題が起きてくることがあります。ひどくなると壊疽になり切断ということもおきることがあります。しかし足の手入れは自分では、なかなかできないものです。毎週水曜日の午後フットケア外来をしています。足が気になる方はご相談ください。

今後糖尿病は血糖を下げるだけでなく、合併症の予防を求められる時代になっています。



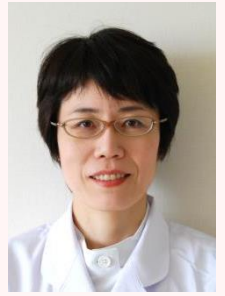


新任医師あいさつ

小児科 大倉 有加

平成13年卒業です。北大小児科に入局し、函館五稜郭病院、幌南病院(現 KKR札幌医療センター)、北見赤十字病院、釧路赤十字病院で研修した後、北大に戻りました。大学では免疫班に所属し小児膠原病やアレルギー疾患、非常に珍しい疾患ですが先天性の免疫不全症などの患者さんの専門的な診療と研究を行ってきました。その後札幌厚生病院で約1年間勤めた後、本年4月から勤務しております。

当院では長く勤められた畑江先生の診療方針を引き継ぎ、親切、ていねいな診療を心がけて小児科診療の充実を目指して頑張っていきたいと考えております。



外科 林 俊治

4月より恵み野病院外科に赴任しました林と申します。平成7年北海道大学を卒業後北海道大学第一外科に入局し、道内各地の関連病院に勤務し、前任地は室蘭の日鋼記念病院に3年勤務しておりました。消化器外科・一般外科全般を担当いたします。生まれ・育ちは島松で今回は20数年ぶりに地元に戻ることができて大変うれしく思っております。恵庭地区の医療に少しでも貢献できるように全力で診療に当たりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



心臓血管外科 田淵 正樹

4月より着任いたしました田淵と申します。堤真一の主演した映画「孤高のメス」のモデルといわれる日本初の生体部分肝移植を行った島根医科大学を卒業しました。縁があって日本初の心臓移植を行った札幌医科大学心臓血管外科に所属しております。前任地となる道立北見病院で「地方であっても札幌圏内と遜色のない医療」を提供するための真摯な姿勢を学びましたので、その経験をいかしたいと思います。そして、学生時代より御指導いただいた 樋上 哲哉 教授の指導を頂きながら、大学病院と遜色のない医療を提供できるように頑張ります。宜しくお願い申し上げます。



研修医 大坪 優介

4/1より恵み野病院に入職しました大坪優介です。研修医として過ごす2年間で恵庭でさせて頂くことにしました。実家は札幌にあり、旭川医科大学の出身です。趣味はスポーツ。特に自転車競技を極めようと学生時代は日々身体の研鑽に務めていました。これからは、病棟・外来そして時々自転車、と皆さんのお目にかかることがあると思います。僕を見かけたら是非、お声をかけていただければと思います。よろしくお願いいたします。

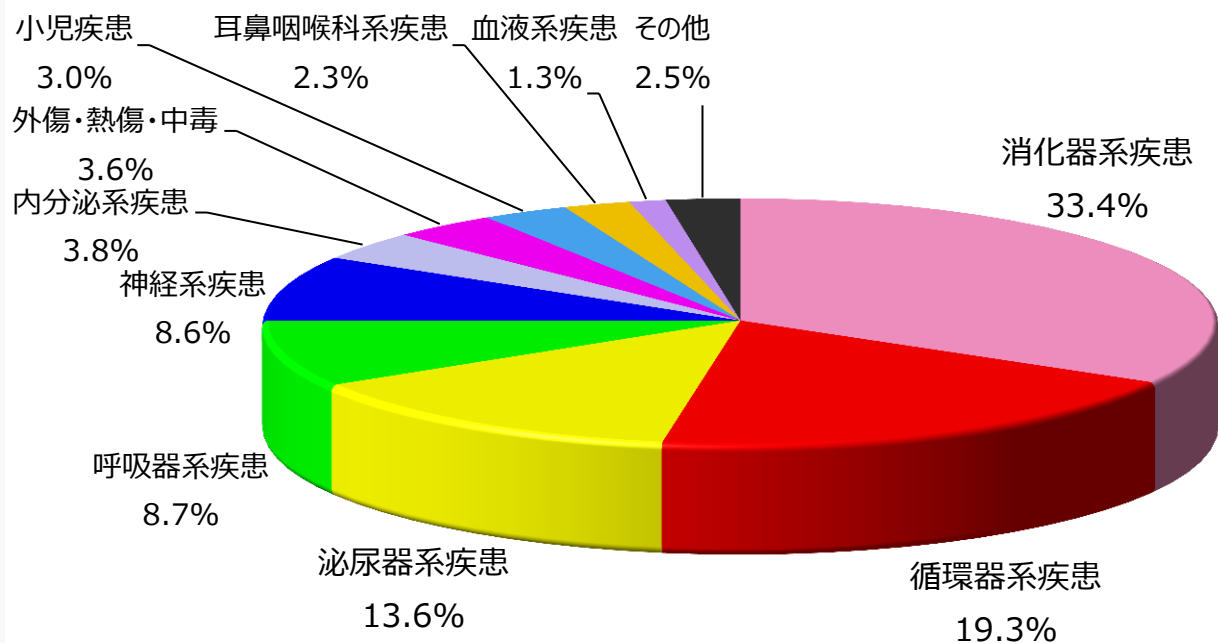


病院敷地内禁煙のお知らせ

平成20年7月1日より、当院の**病院建物内および駐車場、通路を含む敷地内での喫煙は禁止**となっております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



平成24年度疾患統計



24年度の入院をMDC（主要診断群）別に分類した結果、疾患群として消化器系疾患（MDC06）が最も多く全体の3割強を占めています。また、23年度と比較した場合は件数・割合とも若干ですが低下しています。

疾患群の中の主要病名をみた場合、大腸ポリープ・大腸の悪性腫瘍の件数が合計約90件減少しており、胃の悪性腫瘍が約30件増加している状況です。

24年度	
大腸ポリープ	306件
胃の悪性腫瘍	144件
大腸の悪性腫瘍	95件



23年度	
大腸ポリープ	387件
胃の悪性腫瘍	112件
大腸の悪性腫瘍	101件

2番目の疾患群として循環器系疾患（MDC05）で全体の2割弱を占め、主要病名の狭心症は恵み野病院では最も件数が多い病名になっていますが、23年度と比較した場合は消化器系疾患（MDC06）同様で低下しています。

24年度	
狭心症	461件
心不全	99件
急性心筋梗塞	52件



23年度	
狭心症	492件
心不全	80件
急性心筋梗塞	47件

3番目の疾患群としては泌尿器系疾患（MDC11）で、全体の約14%が該当します。上記の疾患群、同様で前年度（23年度）と比較すると減少・低下傾向、また主要病名の変動が大きい疾患群でもあります。

24年度	
前立腺の悪性腫瘍	108件
上部尿路疾患（結石）	85件
慢性腎不全等	70件



23年度	
慢性腎不全等	110件
前立腺の悪性腫瘍	92件
膀胱腫瘍	79件

上記の二つの疾患群は主要病名としては変動がありませんでしたが、この疾患群では主要病名の位置関係がかなり変動しています。特に慢性腎不全等の減少は、腎臓内科の休止が要因になると思われます。

